

## 主催者あいさつ（池村幸久代表）



皆さん、ご入賞おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。奇しくも今日は平昌オリンピックの閉会式。昨日まで平昌の表彰台で数々の感動的なシーンがあり、金・銀・銅のメダルや入賞を果たした感動の姿と、惜しくも入賞を逃した残念な姿に別の意味での感動も目にしてきました。

さて今、皆さんは津市リージョンプラザの表彰台に立っています。皆さんはウィナーです。今年は885点の応募がありました。これに入賞することは、5パーセントの難関を突破することです。「谷川士清大賞」「津市市長賞」「津市教育長賞」の3賞をとることは、平昌のメダルを取ることもより難しかったかも知れません。しかし、オリンピックでもそうですが、勝ち続けることは大変なことで、ものすごい努力が必要です。これからの人生で、皆さんはそれぞれの夢や志の実現に向けて歩まれることと思います。でも、失敗したり挫折したりすることもあるでしょう。そんな時、今日皆さんが書いてくださった『和訓栞』、谷川士清先生が多くの艱難をこえて、この偉業をなし得られた姿を思い出していただき、それぞれの夢や志の実現を果たして、ふるさとの津、三重県、日本に貢献するウィナーズであり続けてほしいと思います。

皆さんは幸運だと思います。現在9歳から15歳。今年、平昌の感動に浸れましたが、2年後には国内での東京オリンピックの感動に浸れます。その前後に今年は高校総体、3年後には46年ぶりの三重国体。サオリーナも含めて三重県に日本のトップアスリートが集まり、皆さんは接することができます。私は前の東京オリンピックは4歳でしたからほとんど接点はありませんが、中学3年の時の三重国体では聖火ランナー隊の隊長をさせていただきました。皆さんは書道や谷川士清先生への関心を維持していきながら、これからの三重県、日本に回ってくる若人の祭典の刺激を糧に、大いに人生をジャンプしていただきたいと思います。来年の書道コンクールのこと、「谷川士清の会」のことは忘れないでくださいね。

最後になりましたが、今年もご共催下さり、多大なご支援を頂きました津市教育委員会と、お忙しい中丁寧にご審査して下さいました稲垣無得先生に心から御礼申し上げます。挨拶の言葉を終わります。

保護者の皆様、今日はお子様たちと大いに感動に酔いしれてください。ありがとうございました。



## 前業泰幸市長より：メッセージ（代読）

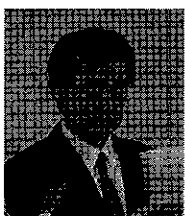
谷川ことすが書道コンクール表彰式が盛大に開催されますことを心よりお喜び申し上げます。

池村代表をはじめ貴会の皆様におかれましては、日頃より津が生んだ国学者である谷川士清先生の偉業を後世に伝えるご活動はもとより、子どもたちの豊かな心を育むためのご活動に熱心にお取り組みいただいておりますことに深く敬意を表します。貴会の皆様には今後も引き続き谷川士清先生の功績を語り継ぐご活動を通じ、本市の文化振興にご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後にこのたび栄えある賞を受賞されました小中学生の皆様には心よりお祝い申し上げますとともに、お集りの皆様の今後ますますのご健勝ご多幸と貴会のご発展を心よりお祈り申し上げます。

平成30年2月25日 津市長 前業 泰幸

## 倉田教育長祝辞（要旨のみ）



受賞された皆さんは、普段から書をやっておられると思います。その中できっと心の成長があったことと思います。津市の多くの小中学生が普段から集中して何かをするということは、将来的に津市の発展につながることでしょう。さて、話は変わりますが谷川士清先生は、医者をしなから学問をされた努力の人でした。みなさんが心を込めて仕上げられた作品は、みな士清さんになんだ言葉です。皆さんも、それぞれの目標を決めて努力をして下さい。

この度のご受賞おめでとうございます。

